

製品名: インターフェロンガンマ (16O15) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe12684**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC,IF-P
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:500,IF-P 1:200-1:500
分子量	19kDa

抗原情報

遺伝子名	IFNG
別名	IFG; IFI; IFN gamma; IFN, immune; IFN-gamma; IFNG; Immune interferon; Interferon gamma;
遺伝子 ID	3458.0
SwissProt ID	P01579
免疫原	ヒトインターフェロンガンマの組み換えタンパク質

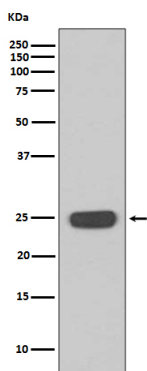
背景

インターフェロン (IFN) γ は、CD4+/CD8+リンパ球およびナチュラルキラー細胞によって産生され、抗原、マイトジェン、またはアロ抗原によって活性化される抗ウイルス剤および抗寄生虫剤です。マクロファージの強力な活性化因子であり、形質転換細胞に対して抗増殖作用を有し、I型インターフェロンの抗ウイルス作用および抗腫瘍作用を増強することができます。T細胞やNK細胞などの免疫細胞によって産生されるII型インターフェロンは、エフェクター免疫細胞を活性化し、抗原提示を増強することにより、抗菌、抗ウイルス、および抗腫瘍反応において重要な役割を果たします (PubMed:16914093、PubMed:8666937)。主に受容体IFNGR1と相互作用した後、JAK-STAT経路を介してシグナル伝達を行い、遺伝子調節に影響を与えます (PubMed:8349687)。IFNGが結合すると、IFNGR1の細胞内ドメインが開き、下流のシグナル伝達構成要素であるJAK2、JAK1、STAT1との会合が可能になり、STAT1の活性化、核への移行、そしてIFNG制御遺伝子の転写が誘導されます。誘導される遺伝子の多くは、次の転写波の制御をさらに促進するIRF1などの転写因子です (PubMed:16914093)。IFNGR1は、触媒プロテアソームサブユニットを免疫プロテアソームサブユニットに置換することにより、クラスI MHCローディングのためのペプチドの量、質、およびレパートリーが増加します (PubMed:8163024)。プロテアソームと会合し、そのタンパク質分解選択性を変化させる活性化因子PA28の発現を誘導することにより、ペプチド生成効率も向上させる (PubMed:11112687)。また、カテプシンB/CTSB、H/CTSH、L/CTSLなどの重要な分子の発現を促進することにより、細胞表面のMHC II複合体をアップレギュレーションする (PubMed:7729559)。さらに、発生過程および恒常性条件下での造血幹細胞の発達、静止、分化に影響を及ぼすことで、その制御に関与する (類似性に基づく)。

研究分野

プロテアソーム、サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用、オートファジーの調節、TGF- β 、Jak_STAT、ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害、T細胞受容体、I型糖尿病、全身性エリテマトーデス、同種移植片拒絶反応、移植片対宿主病、

画像データ



Jurkat 細胞溶解物中のインターフェロン ガンマ発現のウェスタン ブロット分析。